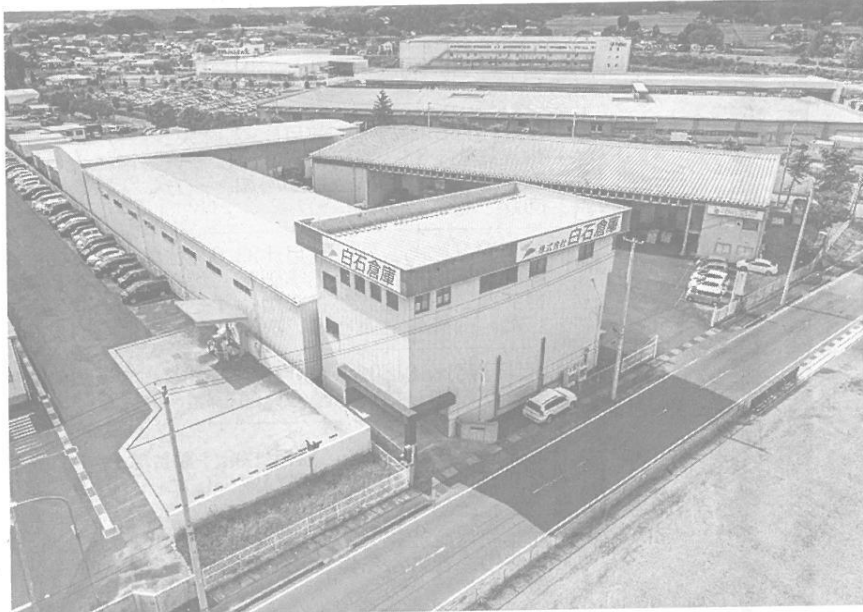


商工中金から融資1億円

国内第1号 企業価値向上に活用



定温倉庫能力高め成長

【宮城】白石倉庫（太宰栄一社長、宮城県白石市）は11日、商工中金から1億円の融資を受けた。ポジティブ・インパクト・ファイナンスと呼ばれるサステナブル（持続可能な）経営を支援する伴走支援型融資制度の、国内第1号企業に選定。企業価値向上のための取り組みに資金を活用していく。

（今松大）

白石倉庫

融資実行を踏まえ、同社は農産物を取り扱う県内最大規模の定温倉庫の能力をアップさせ、一層の成長を図るためのKPI（重要業績評価指数）を設定。経済的価値や社会的地位の向上、働き手の幸せを実現していく。具体的には、2023年3月までに保管能力を4千ト引き上げて4万8千トにするほか、青果物用折り畳みコンテナを洗浄してリサイクル率を高め、取扱数を約7万個増やして110万個にする。また、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた企業マネジメントの柱として、社員

サステナブル経営を目指す白石倉庫の本社

の通信簿となる新人事評価制度や、会社と社長の通信簿である従業員の幸福度チェック事業「幸せデザイン・サーベイ・プロジェクト」などを導入し、より良い企業づくりに努めている。

同制度の適用に当たっては、商工中金と商工中金経済研究所が連携して同社を訪問。経営者との対話などを通じて事業性評価を行う

とともに、第三者意見書も取得し、白石倉庫の持つ強みと課題、目標を共有した。太宰社長は「日本国内の数ある融資先の中から第1号融資先に当社を選んできたいてうれしい。SDGsの取り組みを経営目標要素の一つに加えて事業を組み立てることは、企業の社会的な存在意義を確立するために有意義」としている。